

■第5回検討会議の主な意見

■公開活用の役割について

- ・広域とのつながり、市内の関連施設等との役割分担についても明記した方がよい。

■安全性について

- ・見学者の安全性について、施設内における安全性と、施設からの避難という意味での安全性がある。これらについても考えた方がよい。
- ・震災遺構の中に人が入る際のバリアフリーのあり方についても検討が必要である。

■防災・減災の考え方と公開活用の基本方針について

- ・「前回会議の主な意見資料」の防災・減災教育プログラムに関する項目に記載の普遍的価値の考え方は、公開活用の基本方針として位置づけた方が適切ではないか。

■事業の方向性について

- ・この会議では1つの案に絞らないのか。目標をどのように置くのか、事業費をどうするのか、運営のあり方についてどうするのか、これらについての方針が見えないとこれ以上の議論はできないのでは。
- [気仙沼市] 条件が決まらない中で1案に絞ることは難しい。できればいろいろな展開案を検討したいと考えている。
- ・全体の基本方針からすると、第5回検討会議資料のⅡ案（北校舎活用案）かⅢ案（3校舎を残し南校舎のみ公開、新館で活用事業）ではないのか。
- ・予算ありきではなく、遺構ありきで考えるべきではないか。

■プロムナードについて

- ・プロムナードの設置は地区の要望である。
- ・プロムナードの規模は1,100㎡を越えてはいけないのか。
- [気仙沼市] 可能だが、超過した分は市の持ち出しとなる。
- ・リアス・アーク美術館についても、被災して復旧している。その際、改良復旧は復旧の対象外とされた。プロムナードも既存のあり方を越えられないのでは？
- ・安全対策の意味から、1階部分をピロティにして高さをかせぎつつ、実態として延床面積をとれるようにすることはできないか。
- [丹青社] 軒から4mを越える内部は延床に換算されるはずである。1フロア全部をピロティとして底上げすると、その分延床が大きくなってしまうことになる。

■防災・減災教育プログラムの展開イメージについて

- ・団体の想定規模を100名とするとあるが、実際はこれ以上の団体も多い。
- [丹青社] 一つのシミュレーションとして示したテストケースであり、実際は多様であるはず。但し、施設規模から200～300名の団体と一般来館者をあわせて一度に受け入れることは難しいはずである。分散受入等のオペレーションが必要であると思われる。
- ・現状として、一つの学校を二つのグループに分けることは、先生方は好まれない。
- ・父兄から、震災遺構で食事をするのはいかなるものかといった意見も聞かれる。
- ・実際にシミュレーションをしてみて、この場所でいろいろなものを受け入れて対応しきることは不可能であることが明確になった。市内全体での分散受入、そしてそれを可能とする連携のあり方を検討するべきではないか。
- ・教育旅行に関しては、時期がかぶることが多く、受入のオペレーションが大切。施設連携とともに、ソフトサービスの連携が必要。
- ・修学旅行は、小さな施設には行きづらい。
- ・分散させるのであれば、ここで全てをやる必要はないのでは。

■周辺地域との連携について

- ・地福寺あたりの避難ルートも入れてはどうか。
- ・“海と生きる”気仙沼ということで、地場製品の紹介等も連携の中に含まれるようにしては。
- ・市内施設の連携に関して、リアス・アーク美術館が取り上げられているが、歴史・民俗は館で扱う分野であるので、連携していくことはできると思う。震災に関しては、どこまでこのテーマをやっていけるかは課題である。歴史・地域性という視点では、地域文化という見方もできるだろう。「旧気仙沼向洋高校」とテーマがかぶらないよう、関わり方を考えていく必要がある。
- ・受入にあたっては「選択の自由」という視点で、分散受入でやっていくことにすれば、カバーできる部分はそれぞれあるのではないか。

■その他

- ・残りあと1回であるが、何も決まっていない。公開の範囲は決まったと考えて良いか。また運営のあり方はどうか。建物が朽ちたときは、完全に撤去するのか？コスト的などころ、運営体制について考え方を明確にすべきではないか。